

坂野建設株式会社

2023年度 環境経営レポート

(対象期間：2023年 6月～2024年 5月)



発行日：2024年9月2日
改定日：2024年12月2日

1. ごあいさつ

坂野建設株式会社は、昭和46年の設立以来、土木工事業を通して地域社会の発展に尽力してまいりました。全従業員が地球環境の保全の重要性を認識し、環境負荷の低減に努めることにより、美しい国土の維持、人と環境が共存する社会を目指して取り組んでまいります。

環境経営方針

当社は、企業理念である“豊かな地域社会の繁栄に貢献する”に基づいて、定期的に経営における課題とチャンスを確認し環境負荷の一層の低減を図るべく、全社一丸となって、自主的・積極的に環境への取組を推進します。

1. 環境経営システムを維持し、継続的に改善していきます。
2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
3. 二酸化炭素排出量の削減を推進します。
(電力、ガソリン、軽油、灯油)
4. 廃棄物の削減とリサイクルを推進します。
5. 水使用量の削減を推進します。
6. 工事において環境に配慮した施工を推進します。

上記の環境方針を全従業員に周知し環境意識の向上に努めます。

制定日： 2019年6月1日
改定日： 2020年6月1日
代表取締役 坂野 弘昭

2. 組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
坂野建設株式会社
代表取締役社長 坂野 弘昭
- (2) 所在地
本 社 〒679-5305 兵庫県佐用郡佐用町長尾313
資材倉庫 〒679-5306 兵庫県佐用郡佐用町本位田乙292
- (3) 環境管理責任者及び担当者の氏名と連絡先
責 任 者 坂野 正治 TEL:0790-82-2751
担 当 者 坂野 寛加 FAX:0790-82-2752
Email : sakano-kkk-hiroka@arrow.ocn.ne.jp
- (4) 事業内容
土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、解体工事業、塗装工事業、水道施設工事業
許可番号 兵庫県 第 461401 号 許可年月日 令和6年3月25日
許可期限 令和11年3月24日
- (5) 事業の規模
設 立 1971年4月1日
資本金 50百万円
売上高 122百万円 (2023年度実績)
各事業所の規模

	本社	資材倉庫	合計
従業員	7名	無人	7名
延べ床面積	764m ²	124m ²	888m ²
敷地面積	2,081m ²	3,181m ²	5,262m ²

- (6) 事業年度 6月～翌年5月

3. 認証・登録の対象範囲

登録組織名： 坂野建設株式会社
対象事業所： 本社、資材倉庫
対象外： なし
活動： 土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業

4. 組織



	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者を任命 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境経営レポートの承認 経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規制等の取りまとめ表を作成、遵守評価の実施 環境経営目標・環境経営計画書を作成 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 緊急事態対応手順のテスト、訓練の実施、記録の作成 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 環境経営システムの実施、環境活動の実績集計 環境教育訓練計画の作成と実施 特定された項目の手順書作成（緊急事態への対応を含む） 環境経営レポートの作成、公開（事務所への備付けと地域事務局への送付） 特定された項目の運用管理 問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員 （現場監督含む）	<ul style="list-style-type: none"> 建設現場における環境経営システムの実施 工事担当者及び協力会社員に対する教育訓練の実施 建設現場の環境経営計画の実施及び達成状況の報告 緊急事態対応訓練の実施、記録の作成 建設現場での問題点の発見、是正、予防措置の実施 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

5. 主な環境負荷の実績

項目	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 基準年度	2023年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	60,963	68,363	33,459	36,922	39,177
電力使用量	kWh	9,916	9,703	10,520	10,261	9,139
ガソリン使用量	L	6,328	4,702	3,942	3,816	4,815
軽油使用量	L	13,525	17,900	4,598	7,227	7,499
灯油使用量	L	2,481	2,479	3,064	1,929	1,769
LPG使用量	kg	150	79.3	70.3	68.2	30
廃棄物排出量						
一般廃棄物	kg	91	88	86	86	82
産業廃棄物	kg	184,935	1,718,010	349,063	557,650	1,499,850
水使用量	m ³	366	382	407	694	728

6. 環境経営目標及びその実績

(1) 中期目標

項目	年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
		基準年度				
I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準	36,922	36,922	36,922	36,922	36,922
電力使用量削減	kWh kg-CO ₂	10,261	10,261	10,261	10,261	10,261
ガソリン 使用量削減	L kg-CO ₂	3,816	3,816	3,816	3,816	3,816
軽油 使用量削減	L kg-CO ₂	7,227	7,227	7,227	7,227	7,227
灯油 使用量削減	L kg-CO ₂	1,929	1,929	1,929	1,929	1,929
II. 廃棄物排出量						
一般廃棄物 削減	kg	86	86	86	86	86
産業廃棄物 適正管理	—	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
建設リサイクル率 の向上	%	95	95	95	95	95
III. 水使用量 削減	m ³	694	694	694	694	694
IV. 環境に配慮した 施工の推進	件	取組継続	取組継続	取組継続	取組継続	取組継続

注1) 電力の二酸化炭素排出量への排出係数は、関西電力(株)2017年度実績値の調整後係数 0.418kg-CO₂/kWh を使用。

注2) LPGは微量なため目標に設定しない。

注3) 化学物質は使用していない。

(2) 2023年度の実績

項目	年度	2023年度における実績				
		2022年 6月～5月	(2023年6月～5月)			
		基準値	目標	実績	達成度	評価
I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準	36,922	36,922	39,087	94%	×
		-	-	6%		
電力使用量削減	kWh	10,261	10,261	9,139	112%	○
	kg-CO ₂ 対基準	4,289	4,289	3,820		注3)
		-	-	-11%		
ガソリン 使用量削減	L	3,816	3,816	4,815	79%	×
	kg-CO ₂ 対基準	8,860	8,859	11,179		
		-	-	26%		
軽油 使用量削減	L	7,227	7,227	7,499	96%	△
	kg-CO ₂ 対基準	18,966	18,966	19,680		
		-	-	4%		
灯油 使用量削減	L	1,929	1,929	1,769	109%	○
	kg-CO ₂ 対基準	4,807	4,807	4,408		
		-	-	-8%		
II. 廃棄物削減						
一般廃棄物 削減	kg	86	86	82	105%	○
		-	-	-5%		
産業廃棄物 適正管理	-	適正管理	適正管理	適正管理	100%	○
		-	-	-	-	
建設リサイクル率 の向上	%	95%	95%	99.9%	105%	○
	対基準	-	-	-	-	
		-	-	-	-	
III. 水使用量 削減						
削減	m ³	694	694	728	95%	△
	対基準	-	-	5%	-	
		-	-	-	-	
IV. 環境に配慮した 施工の推進						
件 対基準		取組継続	取組継続	100	-	○
		-	-	-	-	注4)

注1) 達成度欄にて、削減を目指す場合は、達成度＝目標÷実績×100%、増加を目指す場合は、達成度＝実績÷目標×100%

注2) 評価欄にて、○：達成（100%以上）、△：やや未達成（95%～100%未満）、×：未達成（95%未満）

注3) 現場での電気使用料は毎年ではなく、照明や印刷機の使用の為に使用料は少ないので項目には入れず合算で計算する

注4) 環境に配慮した施工とは、騒音、振動、粉じん、道路の汚れ、水の汚れなどを防止し、廃棄物適正処理・3Rに努め、付近住民の生活に配慮した工事を言う。

7. 環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の環境経営計画
二酸化炭素排出量の削減 (目標未達成)		
(下記の通り)	○	(下記の通り)
電力使用量の削減 (目標達成)		
・サーキュレーター（扇風機）の設置	◎	サーキュレーター（扇風機）の設置。今後も活用していく。
・省電力消費	◎	PC・コピー機の未使用時は省電力消費になるよう設定する。
・コンセントを抜く	○	1時間以上使用しない電子機器はコンセントを抜くようにする。
・不要照明の消灯	◎	未使用スペースの消灯を徹底する。今後も継続する。
ガソリン使用量の削減 (目標未達成)		
・アイドリングストップ	◎	個々が意識しエコドライブを実行する。
・急加速・急停車の防止	△	職員が急加速・急発進しているのが分かり注意した。今後も安全運転に徹底して努める。
・燃費向上	○	社用車の燃費向上の為、経済的な運転・小まめな整備をする。
・効率的な移動	○	同じ目的地の移動は出来るだけ同乗する。引き続き削減に取り組む。
軽油使用量の削減 (目標未達成)		
・重機の空ふかしの禁止	◎	一人一人が意識できるように声掛けを行う。今後も継続する。
・アイドリングストップ	○	普段より安全運転に注意しているのでもまずまずできた。引き続き削減に取り組む。
・空気圧、オイル等の点検	◎	日頃から点検をし整備をおこなっている。今後も継続する。
灯油使用量の削減 (目標達成)		
・ストーブの使用の確認	◎	必要に応じて使用していた。引き続き削減に取り組む。
・室温管理（20℃を基準）	○	これからもムダな使用を無くして行く。
・部屋開放の禁止	◎	できていた。次年度も、左記取組を継続する。
一般廃棄物の削減 (目標達成)		
・エコ商品の購入	◎	環境に配慮している商品の購入をする。引き続き計画を推進する。
・再利用して使う	◎	使用済み用紙の裏面使用による、紙屑排出量の低減に努力する。
・ペーパーレス化	○	文書や資料等の書類を電子化しサーバーで保存・活用する。
産業廃棄物の適正管理 (目標達成)		
・種類ごとの伝票の管理	◎	正確な排出量を把握する工夫をする。引き続き計画を推進する。
・素材ボックスの設置	○	仕分け種類を増やす。
建設リサイクル率の向上 (目標達成)		
・分別によるリサイクル推進	○	現場での産廃物はすべてリサイクルできた。引き続き計画を推進する。
・仮設資材の再利用の推進	○	仮設資材を修理することで再利用に努めた。引き続き計画を推進する。
水使用量の削減 (目標未達成)		
・節水の周知徹底	◎	呼びかけによって全員に周知できた。今後も節水を心掛ける。
・毎月の水道使用量の確認	○	毎月の使用量のお知らせを確認することで埋設物の水漏れが無いかの把握が出来た。定期的に点検もする。
・清掃時・手洗い時の節水	◎	水の出しっぱなしが無いよう適切に使用する。
環境に配慮した施工の推進 (目標達成)		
・工事分野別の技術・ノウハウの収集	○	各種工事分野の環境に配慮した省エネ・省資源型の設計を行う。引き続き継続する。
・環境配慮施工の推進	○	可能な範囲で環境にやさしい施工の推進を実施した。次年度も、左記取組を継続する。

8. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守する事項	遵守評
廃棄物処理法	保管基準の遵守、収集運搬・処分業者との適正な契約、マニフェストの交付・保存・確認・交付状況等報告書の提出	遵守
建設リサイクル法	建築物等の分別解体義務、事前届出 特定建設資材廃棄物の再資源化義務	遵守
建設業の再生資源利用省令	再生資源、建設工事副産物の再利用 再生資源利用計画書、実施記録の作成	遵守
大気汚染防止法	特定粉じん排出等作業の実施の届出、作業基準の遵守	遵守
騒音規制法	特定建設作業の届出、規制基準の遵守	遵守
振動規制法	特定建設作業の届出、規制基準の遵守	遵守
オフロード法	基準に適合した特定特殊自動車の使用	遵守
低騒音・低振動型建設機械の規程	低騒音・低振動型建設機械の使用の促進	遵守
消防法	消火設備・火災警報設備の点検整備、避難設備の維持	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていることを確認しました。
なお、環境法規制等への違反、訴訟、環境上の苦情等も過去3年間ありませんでした。

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

基準年度を2018年から2022年に変更した。

今年度は遠方への長期工事があり、ガソリンの使用量が増えたため目標は未達成となったが、エコドライブを意識することにより使用量の抑制に努めることは出来た。

水道量に関しては漏水が続き、大幅な使用量になってしまったため全体の二酸化炭素排出量にも影響が出てしまったが、今は完全に復旧し一定の数値で落ち着いているので、目標値を再設定し次年度から漏水のチェックを徹底し習慣化する。

会社全体ではペーパーレス化に取り組み、出来るだけ文書や資料等の書類を電子化し、データ保存・活用、書類を初めから電子データとして作成した。

引き続き社員全員が使用量の低減に努めていきたい。

「環境経営方針」「環境経営目標」「環境経営計画」「実施体制」についての見直しは行わず、今回設定した基準で継続していく。

項目	見直し要否	見直し内容
環境経営方針	否	—
環境経営目標	否	—
環境経営計画	否	—
実施体制	否	—
その他	否	—

2024年 9月 2日
代表取締役 坂野 弘昭